

平成14年5月(2002年)No. 437

## まずまずの天候に恵まれ 小豆島撮影会無事終了

5月3、4日の小豆島撮影会は、お天気が心配されましたが、曇天ながらときおり青空ものぞく、といったまずまずの撮影会日和でした、メインの国重要無形文化財に指定されている農村歌舞伎を昼の部(子供)と夜の部(大人)共々心ゆくまで撮影できたことは大変よかったですと思います。

その他、田植が行われている棚田の風景、大阪城残念石記念公園と八人石および石切場などのほか、お遍路さんが撮影できたのは思わぬ収穫でした。この度の撮影会は、ロケハンで2泊3日を費やされた藤原さんと関さんの並々ならぬお世話で無事終了することができました。厚く御礼申し上げます。有難うございました。また参加者の皆様ご苦労さまでした。この上は立派な作品に仕上げてください。楽しみにしております。

■撮影会参加者：江藤、江村、岡本、奥、上総、勝、河合、合原、進藤、関、藤原、前田、森、安居、吉岡、以上15名(敬称略)でした。

■撮影会作品コンテストは6月例会(15日第3土曜日)です。公開映写会繰上げのため早くなって申し訳ありませんが、早めに制作して下さい。

■ロケハンでの農村歌舞伎練習風景などのテープを関山河提供されますので、うまく使ってまとめて下さい。但し、作品の長さの半分以下にすることと、撮影協力者をメインタイトルの次か、エンドマークの前に入れてください(エチケットとしての条件です)。

■OMC映像フェスティバルは9月29日(日)か10月6日(日)のどちらか、検討中の新会場で申込みする計画ですので、作品は7月例会までの作品から選定します。発表会用作品を制作される方はよろしくお願ひします。

### 5月例会のお知らせ

5月例会は25日(第4土曜)18時より、阿倍野市民学習センター(あべのベルタ3F)にて開催します。いい季節を迎え、カメラ持参でお出かけの向きも多かったと思います。どうぞ作品を見せて下さい。楽しい例会でお会いしましょう。

## 4月例会のレポート

新緑の季節で、清々しい薫風が吹き抜ける今日この頃ですが、ビデオ撮影にも最適な季節です。暑くなく、寒くもなく、色とりどりの花が咲き乱れて、カラフルなビデオ映像が期待できます。

今月の司会は合原さん、書記前田さん、デッキ係は河合さん、増池さん、受付兼照明係は安居良枝さん、渡辺さんのそれぞれ担当で会を進行しました。今月も新入会員、山本 正夢 さんが新入会され、拍手で迎えられました。OMC の会員数も、毎年2～3名の出入りはあるものの、ほぼ40名前後で安定した会員数で推移しています。

### ■新入会者

山本正夢 〒590-0101

堺市宮山台1-2-6 TEL 072-293-6261

(先月入会された岸上さんは：)

岸上貞夫 〒546-0043 大阪市東住吉区  
駒川3-14-9 TEL 06-6628-3630

■出席者：森、吉岡、渡辺、藤原、森口、前田、片山、安居夫妻、増池、上総、河合、今井、進藤、森下、有村、西村、江村、那須、合原、関、江藤、松本、華岡、岡本、岸上、勝、宮崎、中尾、山本の30氏(出席名簿記入順)

### ■上映作品

#### 1. 城と桜 増池 茂さん 6:40

大阪で一番手近な“桜”ということで、大阪城の桜を撮ってこられたという作品。約1時間撮影し、10分の1に縮められたということですが、出品の度に上達の跡が見られ努力されている様子が伺えます。作者はこれまで、ズームやパンニングを使わずに固定ショットで撮られることが多かったように記憶していますが、この作品はズームとパンニングを効果的に使っておられます。途中で桜吹雪のカットがありますが、この場面はやはり最後の方がいいのではないかと、桜吹雪→夕方の風景と締めくくった方が良かったように見受けられました。アップの桜はふんだんにあって美しいのですが、桜を愛でる人の顔がアップで登場し、次に桜のアップのカットがあればなお良かったと思います。お願いして撮影させても

らう必要があるので、少し勇気が要る撮影になります。・・・。

#### 2. 飛騨古川なごり雪

森口吉正さん 7:38

先月の末に車で行って撮られたという作品。大阪では、桜の季節なので、チェーンを持たずに行き、大変困ったという苦労話を披露されました。毎回見せていただいている“森口調”ともいべき紀行作品。飛騨は高山しか知りませんでしたが、このような昔ながらの風情を残す町が高山の17Km北にありました。あまり知られていないようですが、落ち着いてしっとりとした情感を漂わせてくれるいい町で、素晴らしい作品に仕上がっています。“和ろうそく”屋のご主人が撮影に協力して下さって非常に引き締まった作品になっています。このシーンが撮れてなかったら、平凡な古川のうわべの紹介作品になったでしょうが、この職人さんの登場で奥行きのある作品になったと思います。唯、職人さんの語りの所は、BGMをカットしてSEだけにして欲しかったと思いました。

#### 3. ナイス長浜 安居良枝さん 6:45

この4月の初めに長浜に行き撮られたというホヤホヤの新作。平日でもシルバーの観光客が多くなかなかの賑わいとか。ご自身の健康上の不安もあって今年の撮影は無理か、と懸念していたが、良い薬のお陰で復調し撮影旅行にも行くことが出来たそうで、なりよりです。冒頭にそのようなお話の出だしから始まって、桜が満開の長浜城のタイトルバックのシーンに続きます。

後は長浜の新旧観光名所を巡ったり、湖岸へ散策したりして進んでいきます。護岸工事のために水が汚れていたのには、作者は気にならなかったようですが、気になったシーンでした。単なる観光巡りではなく、ご自身の健康問題に絡めてのナレーションは、作者独自のものです。太閤さんゆかりの街という紹介で、始まってよかったのではないかと、という批評もありました。

#### 4. 神宮 安居利次さん 6:40

人気のない朝の伊勢神宮の様子を描いた作品。日中の人出の多い時は、感じられないかも知れませんが、この作品のように人

気のない早朝は、荘厳な神々のおわす神聖な地域という雰囲気伝わってきます。現地で一泊され、早朝に撮影されたことは正解でした。”心の琴線に触れるものを感じた、それは体の奥深くに眠っていた古里の風景であることに気づいたのです。”と作者は語っていますが、私達に何かを語りかけてくる神々のおわす場所、そこが伊勢神宮なのです。確かにこのように神々しい雰囲気を味わうには早朝に限られるので、大勢の参拝者は日中の喧噪な様子しか見ずに、このような雰囲気を味わうことなく帰っていくことが少し気になりました。

#### 5. 棚田風景 進藤信男さん 2:15

能勢の棚田風景を”埴生の宿”の1曲の長さに合わせて作られて短編。日本の原風景ともいえる棚田のある風景は、見るものに心の安らぎを与えてくれます。やはりこれは日本人が農耕民族という証で、西洋人にこの風景を見せても感じるものがないかも知れませんね。ムードを大切にする作品ですので、テロップなど説明的なものは不要ではないかという批評がありました。この作品は刈り入れ前の秋ですが、四季を追って、田植え、夏の草刈り、収穫、そして雪の積もった棚田で終わるといって、1年を通して追いかければ、素晴らしい作品になるのではないかという意見がありました。作者からはさほど遠い場所ではないので、是非挑戦されてはいかがですか。

#### 6. あそBOYで行く阿蘇

江藤洋司さん 10:00

昨年秋に発表した作品を再編集して持参されたもの。九州で走るSLなので、知名度は今ひとつ知られていません。北は北海道から、この九州まで日本の各地で復活SLは多いが、このあそBOYはハチロク型といって大正時代に製作されたもの。大正生まれのSLここだけで、他はすべて昭和製です。JR九州はPRが下手なせいか関西では一部のマニア以外は全然知られていません。もっと上手にPRすれば、集客できると思うのですが・・・。

作品的にはタイトルの通りに、熊本から終点までの「行く迄の」組立にしたほうが良いでしょう。外輪山の雄大な風景の前に

民家があるのも味気ないし、子供のショットは子供の目線で撮るべき、インタビューは相手の目を見てするべきとの批評でありました。

しかし、ビデオを始めて間もない作者としては、これまでの作品群の中で、企画段階から撮影・編集と、よく考え頑張った努力作品であると、評価してもよいのではないのでしょうか。

#### 7. White View (白い風景)

有村 博さん 3:47

北海道の雪の風景をパソコンを使って遊び回った作品、と云って持参されました。ほぼ全編に亘って2画面合成などの効果を縦横に使いまくっておられます。2画面合成の双方の画面(えづら)はよく吟味してやる必要があるのではないかという意見も出されました。確かに効果の使用回数は多いがさほど違和感はないとの意見もありました。白鳥が水面に舞い降りるシーンをスロー(効果の一つ)にしておられますが、これは成功例です。このようなスロー再生はあと1~2ショットあってもよかったように思いました。

今回は”お遊び”ということで、次は真面目に効果をオーバーラップとスロー再生位にして編集し直したら、冬鳥の詩情あふれるポエム作品なるのではないか、と思ったのは私だけでしょうか。

#### 8. 春くる 江村一郎さん 3:47

二月堂から東大寺までの間の限られた地域を映像化した作品。TOPシーンのお水取り大松明のショットはさすがに迫力があって見応えがあります。二月堂から下って東大寺大仏殿までの間の、湯屋、鹿など奈良らしいショットが続きます。ラストは題名の”春くる”という主旨からか、どうも桜がメインテーマになっているように見受けられました。しかしTOPの大松明があまりにも迫力があるので、後が続かないのでは、静から動への展開は易しいが、動から静への展開は大変難しいのものです。BGMがダイナミックなので、火以外の映像がおとなしすぎるようです。移動撮影をするなどして、流れるような画づくりでラストへ繋ぐ方がよかったのではないかと

いう批評でありました。しかし江村作品は上映の度に色んな話題を提供してくれるので毎回楽しみが多い作品です。

## 9. 弥勒菩薩を彫る

那須典彦さん 13:05

昨年9月の作品研究会で上映したものを再編集し、出演者ご自身のナレーションで語られたドキュメンタリー作品。那須さんとしては、2本目のドキュメンタリー作品です。1作目は仏像彫刻の先生を追った作品で、今回は生徒である女性の仏像製作過程を追われたもの。8ミリフィルムからビデオになってドキュメンタリー作品は少ないので、非常に貴重な作品です。①ナレーションは制作者ご自身が語っていますので、一人称の語りになっていますが、一人称では云にくいこともあり、第三者のナレーションで語るのも一つの方法ではないか。②インサートカットの花も使い方を考慮したほうがいいのでは。③仏像が出来上がってからの喜びがラストに近づくにつれて薄くなっているように思われる。④作者の思い入れが伝わってこないのが惜しい、というような批評がありました。

しかし、密着して取材されているので少し手を入れたら、素晴らしい作品になり、全国コン入選も期待できるでは、という意見も出され、そのような期待のある大作であることは間違いない作品と思いました。

## 10. 雪の金剛山 宮崎紀代子さん 5:00

大阪と奈良の県境にそそり立つ金剛山(1125m)を節分の日に登山した楽しい記録作品。あまり理屈を言わずに楽しそうだなと、登山者やそり滑りを楽しむ人々と楽しさを分かち合えば良さそうな作品です。大阪にもこれだけ雪が積もり、霧氷も見られ、雪国の風景と大して変わらない撮影場所があることを知ったのは一つの発見でした。作品のまとめ方として、先に金剛山の紹介をして、最後は滑って、ころんという構成にした方が面白いのではという意見も出されました。撮影をマニュアルでされているようで、露出オーバーで色が飛んでしまったのは惜しまれます。

以上で例会を終わり、それぞれ二次会場へと席を移しました。

## ■小豆島撮影会報告

5月3日はゴールデンウィーク後半4連休の初日とあって、新幹線ほか交通機関は混んでいたが、参加者15名は無事、小豆島土庄港前の旭屋旅館にお昼少し前に到着。簡単な昼食を頂いた後、早速、港広場にある二十四の瞳像から撮影開始。そして旅館のマイクロバスにて棚田の見える丘へ急行。丁度棚田に田植えが行われるシーンが撮れて皆大満足であった。次は今回のメインテーマである国の重要無形文化財である農村歌舞伎が行われている肥土山へ急行した。この農村歌舞伎の舞台も茅葺きの古いもので、これも重要有形文化財に指定されているもの。ゆるやかな斜面に、観覧用の桟敷がしつらえてあり、近くの農村の方々が年一度の農村歌舞伎を楽しむ場として立派なものであった。午後3時からの子供歌舞伎を撮影、4時半に一旦旅館へ戻って夕食、再び7時半に夜の舞台を撮影した。夜は大人の歌舞伎で華やかな舞台を心ゆくまで撮影することができた。今日は曇りがちの天気、夜は一時、小雨も心配されたが、ほとんど降らずにほっとした。帰って旅館広間で懇親会を開催。2日目は旅館のマイクロバスを貸切って8時出発。ときおり青空ものぞくまざるお天気。まずは大阪城残石記念公園で撮影の後、お遍路さんを追いかけて70番霊場の長勝寺から山岳霊場72番の笠ヶ滝奥之院霊場の急斜面をはい登るお遍路さんを収録。続いて石切場を経て福田港前の食堂にてお昼のお弁当を頂いた。食堂のおかみさん、持込み弁当でも気前よく場所を提供してくれたので、コーヒー等を注文、更に土産物も買ったのでまずまずの商売になったか。午後は、寒霞溪へ車で登り、絶景かな、絶景かなを楽しむも、紅葉の季節でないのが残念。ここで江藤さんのインスタントカメラで全員の記念写真をパチリ。バスは一路土庄港へ帰る。宿のおかみさんから、皆昔なつかしの森永ミルクキャラメルをプレゼントされてニコリ。4時発フェリーにて帰路についた。ご苦労様でした(合原)。

■インターネット情報(ネット版にて)